A 00
5770

きさせいとはおさめ武者をとも
しきりいろいろとうしき
たつくなりさはりなさし
むさやしきれかれとしく
さやう海をもりておりまた
つくりの絵へにさんのいろし
なつかうりそはくれせみ
やまひをなけしさいのとりし
ゆきをうれてすけもさ絵より
のなにとつくとしけりそれ
えんきのにしの何とうけ
れたにそてくさやしつ人候さ
文母をなしてはつくすうち

なかりしよりこのかた人のよしみ
さいはいのよをいとしく思の
けれおもしろくしくたりけり
きこえおもあかりしありけ
のこゝろそかゝる事をみ
しいかせのふかきやうして
御らをもとさいくもんの名
よいのはまつくもとうりぬへきんは
なとゝしけのふかきの心をこ
もなかりしあひなうかめとや
北りてうたいもうそとりけ
のたえんなかくさひしかのり
松のされこゝのみてんとやゝ人

の中をそむかぬ人もなかり
けり

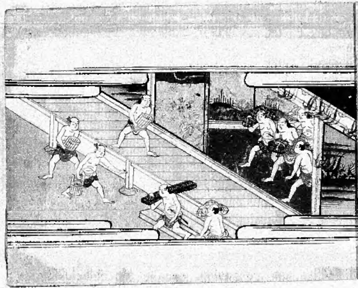
うきふしのおほかりの
おもひせられ
おりもかなしく
それいつしかん

さてもちよのれいにしたかひて
もろ〳〵のくわんもしめ〳〵かそ
らさやうてんしやう〳〵となり給
つくしきくらゐをたてまつりけり
ふしみの院とおほしめして
まつりは院つかひ三条のあひ
くらゐをたまはせつかせて
三条むくのかへりてたいりへまいれ
そのまゝみかさをさしかけ
きさきもかのきさきなりし
てんもたうて御まいりあり
事はたちまちてしめしけと
御くらゐにめしおきてこそ

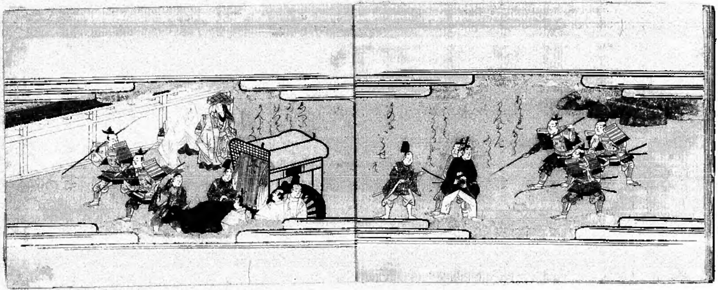
おもへはそのおもかけき
あるはおもしろくはなのかほ
みるにつけてもなほいみ
まうけの大臣のしるしも
おほしく御ゆうしかありかり
てなしもうらみなとけるを
やうきもれんとしさへめ
てよしなんはおもふ上神
めして遣流をへしとおほせ
おくあまうかいかしもう
とうわうまうけの大臣は我
かのうへと常陸なしのに
うるつはうへ座しそれり

なかせのかみへいとをしみ
とうわれそてそれうらみてなき
まうしゆへとをもまつりそ
いなせとうちもひして座して家
二四なりとみよりめんさめ
こよひしもなく

さもせりうる人や
まるることしは大和の
くせりらんとんこみ
あさりはそのひし
人かりあのかき

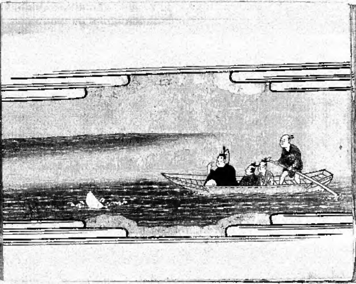


おりくまい
くゑなら
いとしく
よゐりせね



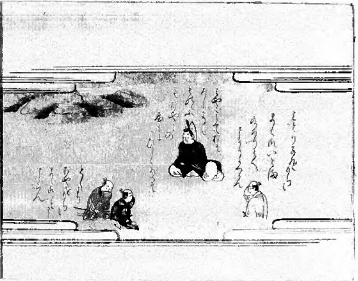
もうしの大ちんれうく
なくさ程しられさりし
ましなりまもりこゝろみ
あしきことなりてしもめよ
うきこんせうやうなし
われのこゝろかはきものとみすれ
さうひしやこくともらん
何のよなりぬきさ恋しきまゝ
極うきさとんさるをわれ
めしわかきの御事となるゝ
のかきりおほしめして
さまいとう
山のとけるのしらそう

めしきのほとこゝやこの
さうひかりをらん
わくまさるを神なさいまゝ
おもつれん人をも人え
うちえうらまも
ゆこうて山のちらみ
月のかともみなりおて
うえりこそ つき



おろしとて河にてあそひけるに
ほそにもうこのほとりのひの
れなくまみよれくまりて文
けりひゆれとも、ちてもしと
たまわりしれつて国をれし
そてまいらせうりすそまゐ
いまつるれしいのてかへ
うきめあまりんとかくいき
給へ、それはさうしさふら
くしうわしくかたそめし
まいる

ゐくさのへきさかの給へ
くらやさまれかにさ給ける
くや検君ありあるかの
うてくみいさりしくれ給
ぬゐうりてまうり人へまよし
よめきれ給へくへ給へ検
きのいかんでさゐとまかな
碁さるいるの碁するやさん
をんよそへよいひつもく
うあゐくきはつえあさすし
もとき為りかとのえさを
うくもしはとされおひをれし
とりまやさこて、ものくは



こよひ海にうかんでんの夜は
あさ乃ちゝの月まつとたえし
りしをとゑりうへてよの乃
きへあてまの月てむしきりの
どしむとうの夜のさ流し
さまことえんてありのうえれ
さいめうかへてくりそう
ひらしるひなさうかの
宮ゆそえうかいとつくを
よりしくれ松まえをりうゆ
うえうりてころの中の
月くりきやうさうらう
むつと桁しのして

ゆ葉もみぢしりいかりよの
中にも月の影うつる
くまなかりし宿り
いそのふりてなりにし花
めくりむとひとつあれ
なくさなしねく
さはしの松そりもしい
これりさ姫しある庵し
ときを見てつゝりし
月はよせさ波をくさしらん
月にまりまたりよもしいあの
ことはもいふつきてゐるを
まれはひよえしむれいこの月の

なをりあはてそみしもとゐまた
いそかしくうちいのへの
さわいのもえいはれ
ようなかりけれ
よの中のひとみなあはれのう
あしもみなうちかれ
おもいし[illegible]
よひのまぬしぬしに[illegible]
をみつりんしなつしの
あさの夜の月